

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）とその内容について、研究科の内外に周知を図ると共に、神学研究科の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開（WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映〔心得に掲載〕）	C
2. 上記研究分野を基礎とした履修コース（キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース）それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。（博士課程前期課程）	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

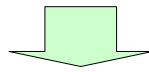
☆ 小項目0.0.1	<p>(理念・目的)</p> <p>神学研究科は、関西学院創立時の「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」という基本理念を具現化するため、キリスト教宣教のための高度な専門的知識を具えた職業人を育成することを使命としている。キリスト教界、とくに教会やキリスト教学校教育、社会福祉や社会活動の領域において指導的な役割を果たす人材を送り出し、また神学の領域では独創的な研究者を生み出すなどの実績を残してきたが、今後もこれを継承発展していく。</p> <p>神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に、4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を設けている。学生各自が研究主題を選び、指導教授との学問的、人格的な触れ合いによって、それを深め、学位（修士、博士）を取得できるよう、研究と教育を行っている。また博士課程前期課程においては、キリスト教界の指導者となるに求められる実践的な能力を育成するカリキュラムをも導入している。教育目標および人材育成の目標については以下のとおりである。</p> <p>1) キリスト教神学、キリスト教思想・文化の高度な研究の推進 神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行えるよう、指導する。</p> <p>2) キリスト教の宣教に従事する専門的職業人（伝道者・牧師）の育成 ことに博士課程前期課程においては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる人材育成を目指す。さらに、教会などのフィールドで経験したことを理論的に反省し、それを再び実践へと活かすことのできる能力を育成する。</p> <p>3) 総合的な知を身につけた、専門的社會人の育成 キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これとキリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。</p> <p>(現状説明)</p> <p>神学研究科の理念・目的は、関西学院創立時に制定された「憲法」に記されているものを受け継ぐと共に、2008年度よりキリスト教思想・文化コースを設けて、さらなる展開を目指したものとなっており、適切であると言える。</p>
------------	--

★ 小項目0.0.2	(現状説明) 神学研究科の理念・目的、ことに2008年度の学則改正によって設けられた履修コース制については、WEBサイトなどを通じて社会に公表され、ことにキリスト教会とキリスト教主義学校、また、受験生とその保護者層には認知されていると言える。しかしながら、本学構成員（教職員および学生）に対しては、その意義や実態が周知されているとは言えず、なお一層の努力が必要である。
★ 小項目0.0.3	(現状説明) 理念・目的の適切性については、2010年度学則改正に向けた検討過程を通して検証を行った。また毎年度の自己点検・評価を実施する上で、自己評価委員会（研究科）・学部長室委員会での精査を行い、研究科委員会にて周知を図っている。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	2008年度に前期課程において導入した履修コース制が完成年次を迎えるにあたり、カリキュラム（学則）を精査し、一部改正を行った。これにより前期課程在籍学生の研究領域に幅広く対応できるようになった。
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



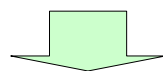
【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

小項目0.0.1	2つの履修コース（キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）および4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を適切に反映した2010年度改正カリキュラムを施行し、その内容について研究科内の周知を図ると共に、理念・目的との関連について定期的な検証を行うことを徹底する。
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価（2）】改善すべき事項

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	本学の構成員（教職員および学生）には、神学研究科における履修コース制の内容、またそれを担う教員構成について十分に理解されていない面があるので、周知方法を検討しなければならない。
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策（2）】改善方策

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	WEBサイトの充実、『神学部報』などの広報媒体を通して、学内への周知を図る。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○研究科の理念・目的について、教職員及び学生に対する周知が更に工夫されることが望まれます。

【学内委員】

○理念・目的などについては目標にもかかげ適切に社会に公表しています。しかしながら、記述にあるように本学構成員への周知に課題があります。また、関係者以外の一般社会への周知度、認知度について考える必要があるのではないのでしょうか。公表した結果どのように周知されたのか、認知されているのかは重要なことです。

○本項目については、順調に進展しています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
